

# ライフサポートひなた

**症 例 概 要** 利用者：60歳代 男性 介護度 4  
利用期間：令和5年6月中旬～9月中旬  
診断名：脳出血後遺症 ※右麻痺・高次脳機能障害・失語症  
既往： 高血圧、高尿酸血症

## 内 容

---

2023年5月頃より鬱症状が出始め、発語や笑顔が見られなくなる。妻の介護負担増となり、リハビリとレスパイト目的によりひなた入所となりました。

入所当所は長時間の座位保持が困難で、時間を決めて臥床対応を行っていた。リハビリ時のみ杖歩行を実施。表情の暗く、自らが話すこともない状態で日中は声をかけても項垂れていました。歩行が不安定なことに対して「なんかダメだ、これじゃダメだ」と不安な声が聞かれ、歩行は促すことは可能も、必要なリハビリ量は得られませんでした。ご本人の意欲もなくテーブルで項垂れている時間も多い状態でした。

介護、看護、セラピストとカンファレンスユマニチュードを意識しつつ日常の会話から始まりお声がけと何気ないお話をしながら、関係性を深めていきました。装具の脱着訓練から始まり、終日4点杖による移動を訓練を継続していきました。「もうやりたくない、だめだ」と表情が陰しくなることもありましたが、朝の離床の声掛けから始まりレクリエーションの参加の促し、そして杖歩行を継続していきました。日を追うごとに安定した杖歩行も可能となっていくことで、次第にご本人の発語も増え表情もときより笑顔が垣間見られるみられるようになり、元々の男前な写真も撮らせていただくほどになりました。

入所期間中に妻のレスパイトによる介護負担の軽減ができ、ご本人のADLの再獲得と鬱状態の改善が見られた。社会性も復活された今回の事案を、キラキラ介護賞に推薦致します。